



1996年4月

第1号

広報委員会発行

まちに熱き想い

このように

日頃は、相原まちづくり協議会へのご支援頂きありがとうございます。私たち「相原まちづくり協議会」が、相原のまちづくりについて仰せ付けておられますが、一口に「まちづくり」と言っても多種多様で、又、大変息の長い仕事だと思っております。「まち」は、その時代だけで創るものではなく、長い歴史と伝統がそれぞれ私たちの市民生活に浸透しています。その市民一人ひとりには、地域に暮らす「あなた」であって、その皆様がこの町「相原」を形成しております。その皆様が、個性をもつていらつしやいますように、「まち」だつて個性を持たなければいけないと常に思っています。

このように考えると正に「まくり」とは、「ひとづくりが基本であり基本」と言えます。私たちが相原まちづくり協議会は、このを良く自覚し、主張し誰もが「んでみたい」、「住んで良かったらに」、「人が来たが街」と成よう、地域の皆様にお応えするとは使命だと感じております。「誇りと豊かさを感じる街」を目して、人に優しい個性の光るまちづくりを進めたいと思えます。どうぞ今後もご指導とご支援を絶間無く送ってくださいることを期し、お願い致します。

相原まちづくり協議会

理事 一同

相原まちづくり協議会役員名簿

役職	氏名	地区	役職	氏名	地区
理事長	青木 幸雄	仲町	理事(企画)	塩原 勇實	丸山団地
副理事長	今村 忠司	陽田	"	吉川 範治	中相原
"	木下 眞	丸山	"	北島 進	中相原
会計(正)	諏訪 賢一	仲町	"	増岡 英一	大戸
"(副)	田中 国元	境	"	松本 昭雄	大戸
会計監査	城定 国光	大戸	理事(広報)	島崎 郁也	境
"	中村 賢智	中相原	"	北島 政次	中村
理事(企画)	萩原 憲	坂下	"	横溝 廣喜	中村
"	笹生 豊	坂下	"	原田英太郎	武蔵岡
"	土田 恭義	元橋	"	野呂 善勝	武蔵岡
"	牛久保利紀	元橋	相談役	八木 邦治	坂下
"	伊藤 勉	陽田	"	井上 正行	中相原
"	河村 国広	丸山	"	伊藤 泰人	陽田
"	白川 洋一	丸山団地			

協議会の

あゆみ

「相原のより良いまちづくり」のために、相原の人達が自主的に一つの組織をつくり、まちづくり運動に取り組んだのは、昭和55年7月のことで、この時に発足させた「明日の相原を考える会」が今の「相原まちづくり協議会」の前身です。

この時は、各町会、自治会より二〇五名の代議員と十四名の相談役を選出し、活動が始まりましたが、あまりの多人数で思うよう活動出来なかつたようです。

そうした事を踏まえて、昭和58年7月に住民運動の難しさを、手弁当覚悟のうえで、発起人10人、会員11人の新組織で、現在の「相原まちづくり協議会」が引き継ぎ、事実上、再出発し現在に至っております。

相原駅周辺の

区画整理案を考える

町田街道の渋滞は日に日に増し、朝夕の状況は耐え難い有様です。ひと山越えた八王子ではニュータウンの建設に拍車が掛り、完成の晩には十万都市といわれ、更に周辺人口は増大することは明らかです。又、一部この程開通した圏央道の事も視野にとらえなければならぬ地域です。

私たちの、相原でも、多摩ニュータウン区域としての相原、小山地区の工事も平成十二年完成予定で工事も進行していますが、相原駅周辺でも既に、平成5年4月6日には相原西口広場と町田街道の拡幅、八王子ニュータウンから町田街道につながる通称南北道路等が都市計画決定され告示されており、町田市ではこれらの整備を買収方式で道路を作るのではなく一つの案として区画整理方式で考えたかどうかということ、昨年、二回にわたって地権者を対象に説明会が開かれました。現在、現形測量の実施の段階に入っている。

この結果で、区画整理方式でいけるかどうか検討するのと、ことである。その後にならないと減歩率等も明確になってこないということなのだが。

区画整理案は市施行で行うことが決定された訳ではなく、民間で組合を作り、組合施行の区画整理という方法もあります。

しかし、市の設定した区画整理の範囲は約40ヘクタールで、地権者数もおよそ650余人程あり、これを民間でまとめ施行に持ち込むことは至難の技であります。

従いまして、市施行としての区画整理の手法で相原駅周辺を面整備するにしても一方的に市の計画によつて整備するのではなく、私たちの、意見、意向を充分に把握しこの相原に生活している市民のため、真のまちづくりを実行してほしいものです。協議会はこのような観点でまちづくりの基本である基盤整備の進め具合を見守って行かねばと思っています。

横浜線

地下連絡通路

相原町の中央に位置し相原の移り変わりを見守っているJR横浜線。

現在この鉄道敷きを横断出来る箇所は、町田街道大戸踏切と陽田踏切の二箇所だけで、横浜線開通当時と変わりにない。

地域市民が自由に安全に往来できる様に橋上駅舎を長い間望んでいましたが、行政は少しも考えていないようだ。

昨年7月3日に市長を囲んでの懇談会の席でもこの件を熱望すると訴えてきましたが行政側の回答は今のところは無理とのこと。

その代りに市長より「町田街道と駅との間に(旧町田街道)歩行者及び自転車通行できる地下道を作りましょう」との約束が得られ平成7年12月より8年1月まで現地測量が行われてきました。

本年度はどのような具体的な計画施工が行われるか期待をもって推進状況を見守っていきたいと思えます。

「夢マップ」

アンケート

あじがとう

昨年の相原町連合町会主催の運動会の会場で、町田商工会議所界支部(中島政男支部長)作成の「さわやかさかいかの夢マップ」を協議会でお借りして、アンケートを来場者の皆様にお願ひし、おかげさまで150余名の回答をお寄せ戴きました。ご協力ありがとうございました。ございました。これからの、まちづくり役に役立てたいと思います。

設問は、今の相原は、住みよいですか、あなたなら相原をどんな町にしたいですか、夢マップに対する感想等について、多様なご意見を頂戴しました。みどりの多い、静かな街、感性があり、人によさしい街に、とのご意見が浮かび出てきているような感があります。また自然豊かな公園、安心できる街、文化的な施設やスポーツ施設等、いろいろな要望がありました。「あいとびあ」で今後、何回かで結果報告を致し、掲載したいと考えております。

区画整理

調査報告書を見て

町田市は、基本構想の中で相原駅周辺を「生活核」として位置づけ、地域市民の生活利便性が向上するよう計画的に整備していく事になっている。その第一歩として、土地区画整理事業で面整備する計画を、この地域域に提示した。区画整理の基本的な調査である

(調査 A) が先に実施され、この調査に基づいた事業案となっている。その調査報告書は、昨年三月に調査機関の東京都新都市建設公社より町田市へ報告されたものです。A4版二十八ページとなっている。構成は、七項目に分類され(Ⅰ)調査の目的(Ⅱ)調査区域の設定(Ⅲ)広域的条件調査(Ⅳ)実態調査(Ⅴ)整備課題の設定(Ⅵ)基本方針(Ⅶ)実現方策の検討となっています。

(Ⅰ)から(Ⅳ)の項目で言っていることは、駅周辺を相原のまちづくりの核とし区画整理が望ましいとしている。(Ⅴ)の整備課題の設定では、何ら特性もなく夢も

ない寂しいただの整備を唱えている。これでは、地域の活性化など考えられない。

次の二項は、協議会で着目しなければならない項目です。

(Ⅵ)基本方針では、テーマ「であいふれあい創造のまち」あいほら となっている。方針では、

- ①町田市基本計画による「生活核」となるような整備を行う。
- ②相原駅前広場(東西)を整備し、街づくりの核とする。
- ③駅周辺及び町田街道沿いの商業地の活性化をはかる。
- ④JR横浜線と町田街道の立体交差事業を行い渋滞緩和につとめる。
- ⑤細街路を広く、機能的に整備し、災害に強いまちづくりをおこなう。
- ⑥自然と調和の取れた、まちづくりを行う。

(Ⅶ)実現方策の検討では、実現の基本方針として①現況市街地における公共用地率(主として道路・公園・広場)が著しく不足している地区のため、面的全体的整備が必要である。②土地区画整理事業

がその地区の住民を主体とした事業であることから、地元住民の意見、意向、の把握に特に留意するとともに、事業の特性としての住民の手による住民自らのまちづくりの推進につとめる。③市は、「まちづくり」若しくは導入する「事業」に対する住民の理解、啓蒙に努め協力を得るための積極的な働きかけが必要であり、住民の意欲的な街づくり活動をサポートしなければならぬ。

以上が調査結果の概要です。これらに対して皆様のご意見ご要望と申し協議会までお寄せください。

相原のまちづくり発信基地 まちづくり事務所



近々オープン 当協議会で自主管理

協議会では、地権者の方々は勿論のこと生活される立場から、商工業を営んでいる方々、小中学生の通学者のほか近在する大学の関係者等、巾広いより多くの人達の交流の中から「誇りと豊かさ」を創る街「相原」にするために交流の場を設け行政と話し合いながら一歩、一歩、歩んで行きたいと考えております。8月には中村町会内の元「どさんこ」跡地に、皆様と交流できる場所が町田市より提供され当協議会で運営管理致します。まちづくりに関するご意見やご要望、又、区画整理の手法で行くと自分の土地や家、店舗がどうなってしまうのか等の不安や疑問などお有りと思います。協議会では、地域の皆様と共にまちづくりをする、まちづくりの拠点として、まちづくり事務所(仮称)を活用して行きたいと思

よみがえれ

ふるさとへの川

境川の河川改修始まる

「ふるさとの川」
ふるさとの川よ
ふるさとの川よ
よい春をたぎて
ながれてゐるだろう
重吉

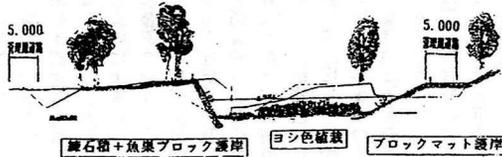
今、相原では、いろいろな道路計画が構想企画されていますが、河川の方でも、相原の町と神奈川県との境、二級河川の境川が生まれ変わる改修工事が現在施工されております。

小山橋から両国橋までの1080メートル(小山第三町会、境町会、坂下町会の流域)を神奈川県相模原土木事務所で「多自然型川づくり」として河川改修が始まっています。

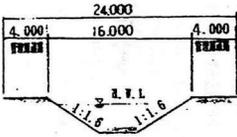
又上流では二国橋から境橋までの1820メートル(中相原、武蔵岡地区の流域)は津久井土木事務所が管轄で施工されております。この改修では護岸工事や植栽工事により水の流れがきれいになり、淀行部分がある程度まっすくになるようです。

新たに河川敷が広がり、公園や貯水池、サイクリングロード等が作られ、散策できる環境も夢でないようです。

多自然型断面図



標準横断面図



「あいとびあ」

発行について

「街づくり」と言う言葉は、一九六二年、名古屋市栄東地区の都市開発市民運動において初めて使われ、都市計画への住民参加の道が開かれました。そして、一九七〇年代前半には区画整理による道路拡張やマンション建設に伴う日照権の侵害などへの反対運動が起きその時に、「街づくり」と言う言葉は、それからの運動の旗印として用いられるようになりました。

その後は、住民の多様なニーズを汲み上げ、計画への住民の参加を促すものとして使われるようになりました。相原まちづくり協議会も地域の変化と共に新たな節目の時期を迎えています。皆様の期待にお応え出来るよう二つの委員会を設け体制を整えそれぞれ活動を開始しました。

その一つの活動が広報委員会による地域情報誌「あいとびあ」の発行です。「あいとびあ」とは、あいはらの「あい」であり愛情の「あい」、でもある。「あい」と理想郷の意であるユートピアの「トピア」を合わせた言葉です。

す。

相原に住んでいる人、一人ひとりが、地域環境への愛着心を高め、人々、ものとの心の関係をもっと豊かにするというのが情報誌「あいとびあ」には、込められています。

今後、定期情報誌「あいとびあ」を皆様に愛読して頂く為には、地域の人々により多くの地域の情報をお知らせすることと、地域の人々のご意見や、ご要望などの、声を反映し、充実を図って行くことが大切だと考えておりますので、皆様の協力をお願いします。

この欄は編集後記のつもりでした。だが締め切りに間に合わなかったんです。本誌の編集が思ったよりも手間取りました。文章で思ったことを伝えるって難しいね。毎朝何げなく新聞読んでるけどいままら感心してしまいました。春真っ盛りのカカポカの日三日も家に閉じこもってしまいました。こんな詩があったら「この涙だっけかあいいよ、こんなはるだもの、いいけしきですって、むちゅうであるいてきたんだもの」さあほの詩でしょうか。すごく好きです。次号はもう少し早めに作業しようと思っ